

## 2022 年度:こども園自己評価の報告書

## 小曾根こども園

評価項目	取り組み状況
<p><b>教育・保育方針</b>  <b>教育及び保育の目標</b>  <b>全体計画・指導計画</b>  <b>こども園として特に配慮すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育課程</li> <li>・教育環境の整備</li> <li>・研究の取り組み 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『認定こども園 全体計画』に基づき、本園の子どもの実態を捉えて指導計画をたて実践した。一人一人の発達段階や個性を大切にした教育・保育をするために、保育アドバイザーにアドバイスを受けこども理解を深めたり、遊びや保育環境の見直しに取り組んだ。</li> <li>・今年度の研究テーマを「一人一人の違いを認め合うクラス集団づくり～関係を育む遊びや援助を通して～」とし、同じ講師に2回来ていただき、年度初めに受けたアドバイスをふまえ、実践した変化や課題を年度後半に考察する機会をもてたことは有意義だった。</li> </ul>
<p><b>健康支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健年間計画に基づき、毎月の身体測定時などに、看護師が保健指導を行い、子ども達が体の働きについて知り興味関心をもったり、自分や友達の体を大事に思う意識をもてるように努めた。</li> <li>・感染症対策で、食事の際の注意、特に手洗いの大切さを伝え指導している。なぜそれが必要かを子ども達の年齢に応じて理解できるよう、絵本や紙芝居なども活用して伝えている。</li> </ul>
<p><b>安全管理</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、施設全体の安全点検と避難訓練を実施し、危険個所や不具合があった場合は、修理修繕を行い、必要な時は修理を依頼した。溝掃除、草抜きなどの環境整備を月1回程度とするようにした。</li> <li>・交通安全指導で警察官の方から道路の安全な歩き方を学んだり、交通安全のルールを動画で学ぶ機会をもった。</li> </ul>
<p><b>食育の推進</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防の衝立の使用や黙食という配慮はできる範囲で継続している。気候の良い時期はテラスで食べたり、給食やおやつ時に食べることを無理強いせず、楽しい雰囲気の中で食べる事を心掛けた。</li> <li>・菜園活動から生長や収穫の喜びを経験したり、クッキングを楽しんだりした。特に「大豆について」は取り組みを玄関掲示し、保護者が関心をもって見たり親子で会話している姿が見られた。</li> </ul>
<p><b>子育て支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園している子どもの保護者</li> <li>・地域の子育て家庭</li> <li>・地域との連携 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響の多かったこの数年だったが、保護者参加の参観や懇談などの機会が、少しずつもてるようになってきた。形態を見直して良かった点は継続しながら、園の教育保育内容を保護者に発信し、共有していきたい。また、支援を要する家庭には密に連絡をとり、必要に応じて他機関と連携した。</li> <li>・地域の老人施設との交流は中止のままだが、子育てサロンとの交流は再開しつつある。</li> <li>・地域支援センターの行事も通常開催できることが増え、ぴよぴよ・わんわん・みつばちサークルなどで知り合い、保護者同士つながるきっかけとなっている。引っ越されてきた方、初めての子育ての方などが地域で孤立しない一助になるといい。</li> </ul>
<p><b>教育・保育内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護・健康・人間関係</li> <li>・環境・言葉・表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期にまずは大人との関係の中で土台を作り、身振り手振りや言葉を使った表現から、コミュニケーション・やりとりの積み重ねをしてしっかりと思いを受け止め、自尊感情を育むことを大切にしました。</li> <li>・こども理解を深めることや、幼児期に非認知能力を育むことの大切</li> </ul>

	<p>さ、子どもが興味関心をもって主体的に関われる環境や援助について等を研修で学んだ。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の子どもの特性をふまえ、集団の中での育ち合いを大切に教育保育を進めている。保護者の意向を聞きながら作成した『個別の支援計画』を基に『個別の指導計画』をたて実践してきた。課題や支援の仕方については、担任や加配の保育教諭だけでなく職員皆が共通理解をもてるよう会議等で共有した。その子どもにとって必要な配慮に気付け、支援のスキルアップの必要性を感じる。</li> <li>・就学前の保護者には特に丁寧に話す場をもち、進学への支援や児童発達支援センターとつなぐなどの配慮を心掛けた。</li> </ul>
職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだこと、係での話し合いの内容を、報告や資料の回覧などできる形で共有した。</li> <li>・月1回の公開保育では、子どものみとり、保育内容の見直しと共に、ガイドラインを活用して環境の見直しを図った。</li> <li>・人権研修では、「事例から同和問題を学ぶ」や「子どもの人権を守るために何ができるか」などをグループワークで意見交流し考える機会をもった。</li> </ul>
幼保こ小中の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保こ小連絡会や校区連絡会が以前のように開催できるようになり、地域のいろいろな施設の取り組みや状況を知り合う機会ももてた。校区連絡会では本園が乳児の保育の様子を実践報告し、小学校や中学校の先生方からも貴重な意見をいただいた。</li> <li>・校区の学校とおたよりを送りあい、お互いの教育保育を知る機会ももてた。</li> </ul>
関係者評価の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員会を年3回実施。園内公開保育の様子も見てもらい、園の取り組みをより具体的に知ってもらえる機会となった。小中学校の校長や地域の方と、地域が連携してできることについて話し合えた。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートでの意見を来年度の園運営に役立て改善していく。</li> </ul>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育・保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども理解を深め、保育のねらいや配慮を職員間で定期的に共有していく。また、その思いが実践につながっていくよう、担当や係の分担、連携の仕方を見直していく。コロナ禍で見直した行事について、ねらいや課題を再確認し、よりよい形態に変えていくことを継続する。</li> <li>・保育者一人一人が向上心をもち、保育を振り返り改善点を見つけていけるよう、意見の出しやすい会議やミーティングのもち方を工夫する。</li> </ul>

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立小曾根こども園

園長名 作田 美樹